

## 第3章 社会的活動

### 公開講座：総合医学研究所研究セミナー及び市民公開セミナー

#### 【現状の説明】

近年、医学研究と医療とは従前に比し格段に密接な関係が築かれつつあり、医学の基礎的研究は即座に医療に反映される状況にある。

本研究所は、開設された平成元年度から研究所を含む大学内で行われた研究成果について、毎年2回の公開講座を開催し公表している（表6）。

公開講座は二種に区分される。一つは、研究所を中心に行った基礎的研究情報の相互交換或いは臨床応用並びに学外からの評価を求める「研究セミナー」、他の一つは、地域住民を対象とし地域社会の健康・福祉の増進並びに文化の向上に資することを目的とした「市民公開セミナー」である。

#### 【点検・評価】

- (1) 研究セミナーは、研究所で行った基礎的研究から得られた成果・情報を学内外に広く公開することにより、臨床系研究者との共同研究の推進及び医療への応用・活用を模索し、また、多方面からの評価を求めること等により研究所内の研究活動の更なる活性化を目的として、その開催の継続に努力を傾注している。
- (2) 市民公開セミナーは、高齢化社会が急速に進行している今日、市民の健康、介護及び福祉への関心、また、社会的に生涯学習機会への要望も急速に高まっている中、そのような関心、要望に十分に応えうるものと認識している。参加者のアンケート調査によれば、“分かりやすい”“毎年続けて下さい”などと熱い期待の声も寄せられている。

なお、両セミナーは共に研究所における研究成果の公表の場であると同時に、テーマに即した識者を学外から招聘し特別講演を依頼するなど最先端情報の収集・公開にも尽力をしている。また、市民公開セミナーは、平成11年3月から石川県民大学校の教養講座の一講座として組み込まれるなど一定の評価を受けている。

#### 【長所と問題点】

- (1) 研究所セミナーの主な目的は、研究所における研究所員による研究所の研究成果を医学部の研究者に提供し、臨床医学への活用或いは共同研究の推進により、研究所内の研究活動の活性化にある。その開催は、土曜日に本学内で行うなど、少なくとも学内の研究者、学生には参加し易い形態に意を配し、また、内容については、研究所員による研究成果の発表のほか、学外から国内屈指の研究者を招聘し特別講演を依頼するなど、医学、医療の最新情報の周知に努めている。しか

しながら、学内からの参加率は決して高くはなく、また、セミナーにより発生した基礎医学の臨床活用或いは共同研究の件数も決して多いとはいえない状況にある。

(2) 市民公開セミナーは、本学並びに総合医学研究所と一般市民との間に有機的な相互交流をもたらし、大学や研究所の存在価値を社会にアピールできるよい機会であると思われる。市民公開セミナーは、土曜日の午後、県都金沢市の中心部で開催し、参加費は無料とするなど一般市民の方々には極めて参加し易い形態としている。また、講演内容は本研究所並びに本学の研究者の他、その都度メインテーマに即した学外の著名な研究者の招聘も行い、国内最先端の講演に心掛けていく。しかしながら、近年、当地においても類似したセミナーの開催または家庭医学関連の出版物の多様化の影響か、セミナーの参加者に漸減傾向が見られるようになってきている。こうした事象を主催者として真摯に受け止めその対策を講じているところである。

#### **【将来の改善、改革に向けた方策】**

総合医学研究所の特色を生かし、医学に関して広い視点に立ったテーマを選択し、一人でも多くの参加者を得て、公開講座の所期の目的を達するべく次の検討を重ねている。

- ①医療従事者や一般市民の方々の関心の動向を先取した研究の推進
- ②医療従事者や一般市民の方々の関心の動向を見据えたメインテーマの慎重な選択
- ③公開講座の開催の時期と場所
- ④市民公開セミナーに体験実習を盛り込む等の開講方式

(表6) 研究セミナー及び市民公開セミナー開催一覧

研究セミナー；主に研究者を対象とした最新の研究テーマを中心とするセミナー

回数	開催年月日	メインテーマ
1	平成 2. 11. 10	人工臓器と臓器移植
2	平成 3. 10. 12	遺伝病の最新の診断と治療
3	平成 4. 10. 31	がん基礎研究の臨床応用
4	平成 5. 11. 6	高血圧の診断及び治療の進歩
5	平成 6. 10. 29	C型肝炎ウイルスと肝臓病
6	平成 7. 11. 18	遺伝性疾患研究の新しい展開
7	平成 8. 12. 14	多嚢胞化萎縮腎
8	平成 9. 11. 1	血管病変研究の新しい展開
9	平成 10. 11. 28	細胞周期
10	平成 11. 10. 23	細胞外マトリックス
11	平成 12. 10. 28	癌の Up to date
12	平成 13. 11. 10	肺の水分調整と疾患
13	平成 14. 11. 2	21世紀の医学研究のあり方
14	平成 16. 2. 21	消化器癌の浸潤・転移メカニズムと臨床
15	平成 17. 2. 26	細胞の死から再生へー医学研究の目標と進め方ー
16	平成 18. 2. 18	抗ウイルスと免疫とケモカイン

市民公開セミナー；

主に一般市民の方々を対象とした身近な医療問題を中心とするセミナー

回数	開催年月日	メインテーマ
1	平成 2. 3. 4	がんの診断と治療
2	平成 3. 2. 24	老化と病気
3	平成 4. 3. 1	肥満と病気
4	平成 5. 2. 28	動脈硬化ーその予防と治し方
5	平成 6. 2. 27	成人病と眼
6	平成 7. 2. 26	肝臓の病気と日常生活
7	平成 8. 3. 10	難病（膠原病やリウマチ性疾患を中心に）
8	平成 9. 3. 2	最新の小児医療
9	平成 10. 3. 8	がんーどこまで治るか、防げるか、21世紀に向けてー
10	平成 11. 3. 14	生活習慣と病気
11	平成 12. 3. 5	太陽紫外線と健康障害
12	平成 13. 3. 11	突然死から身をまもる
13	平成 14. 3. 3	最新のがん対策ー検診から治療までー
14	平成 15. 3. 2	循環器病を予防するにはー脳卒中・心臓病を防ぐにはー
15	平成 15. 10. 26	肝臓を守ろうー生活習慣と肝臓病ー
16	平成 16. 10. 23	乳がんの最新の診断と治療ー乳房自己検診法（実習）ー
17	平成 17. 10. 22	最良のがん医療を求めて
18	平成 18. 10. 21	ゲノムと病気ーがん、生活習慣病、遺伝病の克服に向けてー

## おわりに

今回の自己点検・自己評価を機会に、研究所設立の趣旨である「医学・医療に直結した研究の推進」という原点を再認識して、今後の更なる発展を期したい。

本研究所は設立以来、設備などの更新や充実はあったが、人事面では停滞が見られてきたことは否めない。しかし、平成 15 年 1 月に総合医学研究所開設以来はじめての組織見直しが行われ、将来を展望した改組が実施され、同時に人事異動も一部実施された。また、平成 16 年から研究費の研究実績に応じた傾斜配分の導入、外部資金獲得においては寄附研究部門や特別研究部門の開設などが実施されてきている。今後、更に学内全体での人事異動や、退職と新規採用を有効に運用して活性化を図らねばならないと考える。

ハイテクリサーチセンターが平成 9 年度・11 年度・14 年度・17 年度と続いて採択されてきたことは本学の研究の活性化に計り知れない効果をもたらしている。学内から広く選ばれた、医学部や総合医学研究所の部門の壁を超えた研究者によるプロジェクト研究により新しい研究の芽が育まれつつある。ハイテクリサーチセンター整備事業による充実した研究施設や設備の新設は、採択されたプロジェクト研究が終了した後においても、本学の研究拠点として大きな財産となり、研究の活性化に大いに寄与している。

今後も、ハイテクリサーチセンター整備事業が途切れることなく継続されるよう、研究の内容、成果の更なる充実に努めていく。